

令和4年度官民協働事業レビューにおける意見・評価

事業番号:27-5

担当部局・担当課名:経営管理部 学術振興課

事業名	富山県ひとつくり財団高等教育振興事業費補助金	評価結果	抜本的改善
-----	------------------------	------	-------

事業レビューにおいて発言のあった主な意見

【委員の意見】

- ・企業や地域と連携した事業に対して補助をしてはどうか。
- ・大学には目標を設定させ、目標に達しない場合は補助金を減額する等、厳しい面も見せていく必要があるのではないか。
- ・成果の検証には学生の視点を取り入れるべき。

【県民評価者の意見】

- ・県外流出を抑制して県内に就職定着という視点から考えると、やはり県内の企業との連携がとても大切だと感じている。

県民評価者の評価シートによる評価

県民評価者総数

17

評価区分 (考え方)	行政の関与 不要 (補助金を出すのをやめる)	役割分担 見直し (国や市町村が補助金を出すよう促す)	抜本的改善 (補助金の内容を変更する等大幅な見直し)	一部改善 (補助金の内容を一部見直し)	現行どおり ・拡充 (今までどおり継続する、又は補助金を増やす)
	1	0	9	5	2
県民評価者の主な評価シートコメント	【抜本的改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・企業と大学の連携は大事だと思う。他県からの学生を集める方法はもっと考えると良い。 ・学生の確保と県外流出抑制には魅力度向上が不可欠。大学のインターンシップを利用し、企業連携に関する取組みを補助対象にしてはどうか。 ・助成をしているが成果が出ていない原因を明確にしたい。大学の努力が乏しいのではないかと。また、大学の魅力が県内外の高校生や保護者にアピールされていないのでは。学生が発信する大学の魅力を県内外へ発信したらどうか。 ・一部の大学では、毎年8月に小中学生向けのイベントを開催しており、夏休みの宿題(自由研究)対応にもなり、人気がある。このような活動に対して支援すればどうか。 ・大学収容力が小さいことだけが、県外流出が進む要因ではないと思う。自分自身、県外に出て一人暮らしをしたいと思っていたため、県内大学は調べなかった。実際の現役学生を取り込んだ、大学らしさを一度整理し、その実現を支援するための費用に充ててほしい。 				
	【一部改善】 <ul style="list-style-type: none"> ・少子化や若者の県外流出が進む中で、県内大学が果たす役割は大きいと思うが、私立大学では定員割れが発生するなど、県内学生に対して十分な魅力がアピールできていない面もあると思う。私立大学の入学者数を増やす上では県内高校生のニーズの把握と、それに応じた教育内容の見直しが必要。 ・産学官+地域のより一層の連携が必要。また、「補助金」である以上、厳しい面も必要。 【現行どおり・拡充】 <ul style="list-style-type: none"> ・成果が低いですが継続していただきたいです。とかく高齢者の事象に目がいきやすいですが、子ども達に関わることにあきらめず取り組んでいただきたいです。富山県の未来のためによりしくお願いします。 【行政の関与不要】 <ul style="list-style-type: none"> ・少子化傾向にある中で、県内の学生に対してのみフォーカスしているように見受けられる。県外の学生に対してのアプローチの方が理にかなっているのではないかと。また、県内就職という点では、Uターン、Iターン就職に重点を置くべきだと思う。 				

事業名	富山県ひとつくり財団高等教育振興事業費補助金	評価結果	抜本的改善
------------	------------------------	-------------	-------

【参考】委員による評価

【参考】委員による評価				委員総数	4
評価区分 (考え方)	行政の関与 不要 (補助金を出すのをやめる)	役割分担 見直し (国や市町村が補助金を出す)	抜本的改善 (補助金の内容を大幅に変更又は廃止する)	一部改善 (実施方法は現状通りのまま、金額の見直しや成果の捉え方を見直す)	現行どおり ・拡充 (今までどおり継続する、又は補助金を増やす)
	0	0	4	0	0
委員の 主な 評価 シート	【抜本的改善】				
	・大学の満足度、高校生が進学しようと思うか思わないか、その理由は何かなど、学生(子ども)側の考えをもっととらえる取組みをすべきではないか。ひとつくり財団の事業計画や予算配分、実施実績などをもっと評価した上で補助金を出すべきではないか。定員割れをしている大学自体が自主的に取り組むことがまず重要でありそこに対してひとつくり財団がどのように大学側を見て、評価しているかにも留意していきたい。				
	・せっかくの資金補助がうまく活かされていない状態だと思う。しっかり分析して対応等を大学と十分協議するべきと考える。また、県が仲介して「企業との連携」をつくるのが、今の時代の流れかと思う。魅力向上につながると思う。				
	・ひとつくり財団として、オープンキャンパス、研究等の中身について、アピールできるポイントがあるのか、必ず評価することが必要。それをしないと、減額も含めて考えないといけないのではないか。				
・資金が本当に必要なものに使われている感じがしない。何が大学に求められているのか考え、それを実現するための支援をしてほしい。もう少し大学に対して厳しく求めていいと思う。					

県の対応

対応方針	抜本的改善	事業内容見直し			
	○補助対象メニューを見直すことにより、事業目的や成果の明確化を図る ○企業や地域との連携を必須化し、取組みの促進を図る ○事業成果の目標値や「学生の満足度」を測る指標の設定を義務付けし、成果を検証することで毎年度の事業改善につなげる				
R5当初予算での対応	R5当初予算(案)	7,500(千円)	R4当初予算	7,500(千円)	増減額なし
	増減理由	-			

事業名	富山県ひとづくり財団高等教育振興事業費補助金	評価結果	抜本的改善
------------	------------------------	-------------	-------

当初予算編成プロセスの見える化

令和5年度当初予算	要求状況	要求額	10,000(千円)	前年度予算額	7,500(千円)	
		事業の目的	県内私立大学・短期大学の振興			
		事業内容	<概要> ひとづくり財団が実施する「私立大学等振興事業」へ補助 <補助対象となる事業> (1)企業や地域との連携【必須】、(2)県内大学等進学促進、(3)県内就職促進、(4)学生生活動促進、(5)ウェルビーイング向上【必須】 <KPIの設定> ・在学生の満足度(満足していると回答した人の割合)向上 ・県内私立大学・短期大学の定員充足率100%到達・維持 ・県内私立大学・短期大学の県内就職率90%台到達・維持			
		積算内訳	私立大学:3,000千円×2=6,000千円 私立短期大学:2,000千円×2=4,000千円 計 10,000千円			
	予算編成過程における議論	レビューにおける意見を踏まえた事業見直しを行っているが、近年の執行状況や事業実績(6,000千円前後)を踏まえれば、予算の増額までは不要でないか。				
	最終的な予算案	予算額	7,500(千円)	/		
要求時点からの変更点		予算編成過程における議論を踏まえ、予算額を7,500千円(=前年度)とした。				